

きっかけをつなぐ旅によう「パスポート」

PASSPORT.

vol. **87**
FREE PAPER
地域の出来事に触れる
ソーシャルマガジン



徳島ママ防災士の会 Switch



阿波を共に走る会

まちづくり協働プラザとは？

NPO法人をはじめとする市民活動団体を育成・支援するために、平成16年1月に、「徳島市市民活力開発センター」が設置されました。現在は「徳島市まちづくり協働プラザ」に改称し、徳島駅前アミコビル7階にて、協働によるまちづくり活動及び市民活動促進のための業務を行なっています。

開館日

火～土曜日 10:00～21:00 / 日曜・祝日 10:00～18:00

休館日

月曜日 ※月曜日が祝日にあたる場合はその翌日
年末年始・お盆

連絡先

[TEL] 088-611-3886

[FAX] 088-624-3860

[mail] machipura.tokushima@gmail.com

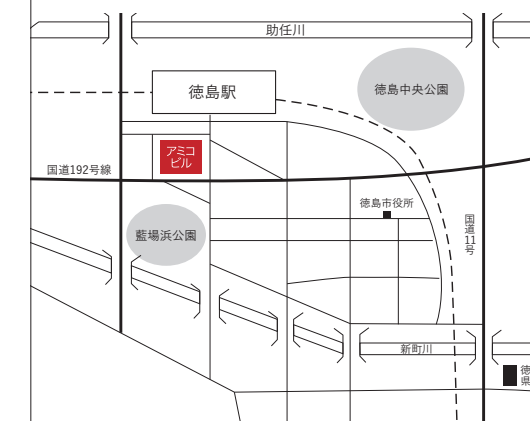
HP



Facebook



ACCESS MAP



所在地

〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1丁目5番地
アミコビル東館7階

お車・バイク・自転車でお越しの方

アミコラインパークの駐車場・駐輪場、もしくは周辺のコインパーキングをご利用ください。



マネージャー 岸田 侑

助成金申請のサポートや、NPOと行政、NPOと若者とのマッチングなどに注力しています。ぜひご利用ください。



事務局長 長谷川 隼

NPOに関する相談対応や会計事務を主に担当しています。会議室や機材の利用、お悩み相談でも、いつでも気軽にお願いします。



事務 清水 杏咲

事務や広報誌、HPでの情報発信を担当しています。市民に届けたい情報があれば、ぜひお知らせください。



徳島市

まちづくり
協働プラザ

Machizukuri Kyodo Plaza

PASSPORT.

発行月：2023年10月 号数：87号 発行：徳島市まちづくり協働プラザ
この広報誌に関するご意見、ご感想は、発行元である徳島市まちづくり協働プラザ
(088-611-3886)までご連絡下さい。

イベント情報大募集！！

PASSPORT.への掲載や、メールマガジンでの配信、徳島市まちづくり協働プラザの掲示板へ配置させていただく情報を随時募集しております。「取材に来てほしい!」「こんなイベントするよ!」といったお声をお待ちしております!!





すべては「守りたい」という想いから

『もしも』を
日常に

2022年2月、徳島県内で防災士の資格を持つ母親「ママ防災士」たちが集い、『徳島ママ防災士の会 Switch（以下、Switch）』を設立されました。子育て世帯に対して防災の意識・知識・技能の向上を図り、災害への備えに対する重要性を届けている団体『Switch』を取材しました。

防災士になることで

9月1日「防災の日」、徳島県内でママ防災士として活動されている『Switch』代表の瀬戸さんにお話を聞かせていただきました。『株式会社エフエムびざん』のディレクターでもある瀬戸さんは、会社の方針で防災士の資格を取る機会があったそうです。『エフエムびざん』はコミュニティエフエム局として平時から地域に密着した形で情報を届けていますが、災害時には被害の軽減に努める「臨時災害放送局」の役割を担う可能性があるためです。近年、徳島でも防災士の資格を持つ女性が増え防災力を高める活動が期待されているものの、資格を活かす場面が限られているというのが実情。そこで、瀬戸さんは仲間を集め、子育て世代が気になる防災を学び、その必要性をより多くの方に伝えていく機会を創り出すために団体を設立しました。ママ防災士それぞれの得意を活かした発信方法を追求しているといいます。例えば、あるママ防災士さんが歌と曲をつくり、もうひとりのママ防災士さんが振り付けを担当したオリジナルの「防災ダンス」。災害時に取るべき行動が覚えられるように考え動画も作成しました。

（こちらの「防災ダンス」は、YouTube『防災ダンス 徳島』で検索すると視聴ができます。）

ママ防災士だからできること

ママ防災士としての活動は、それぞれの地域や家庭環境に合わせて企画・運営を進めています。互いに子育てをしているため忙しい時間帯や参加しやすい環境などを理解しあえることも大切なポイントだそうです。さらに、どこか堅苦しく感じてしまう「防災」が、お母さんに防災意識があることで子どもたちにとっても身近なものになり、命を守る意識が自然と身についているように感じるそうです。例えば瀬戸さんのお子さんの場合、一緒にお出かけした際に天気の話や津波が来た場合の建物の話が自然と出てくるそうです。

また、講座や訓練へお誘いがあった際には、子どもと一緒に参加することが可能か、キッズスペース設置や託児等を検討できないかなどの子育て世代が参加しやすい環境づくりへの働きかけも行っています。災害が起きてからではなく、『もしも』が起こる前の「日常」から、命を守る意識を当たり前に持つことのできる環境作りに努めた1年になったようです。

防災×阿波おどり!

大きな地震や災害を経験したことのない徳島の子どもたちに「防災を考えるのは恥ずかしい事ではなく当たり前のこと」と言葉で伝えるだけでは限界があります。自然災害の恐怖だけを植え付けるのではなく向き合う方法も伝えたい。その取り組みのひとつとして、2023年に「徳島ひなくん連」という阿波おどりのグループを結成。お祭りのような楽しい場でも、いつ災害が起こるかわからないことを違和感なく伝えたい。阿波おどりであればそれが可能なのではないかと地域と一緒にチャレンジを決めたそうです。残念ながら当日の天気が大雨となってしまい演舞場で踊ることはできませんでしたが、その雨の中でも阿波おどりを楽しみにしていた観客に対して台風接近に伴う安全確保の啓発として、特製のうちわを配ったそうです。瀬戸さんは「当たり前」に大切な命を守るような未来をつくっていかれたら。それを実現するためにたくさんしたいことがある。」と今後の展望を話してくれました。すべての活動に『歯を磨くのと同じくらい、当たり前』に防災について考える未来をつくりたい』



「徳島ひなくん連」の皆さん

INFORMATION

徳島ママ防災士の会 Switch

徳島県内で防災士の資格を取得する母親が集い、災害から自分や大切な人の命を守るためにより多くの子育て世帯に災害の備えの重要性を伝えている団体です。



Instagram



HP



僕らはボランティアではなく、ランニング仲間。

BLIND & GUIDE

ひとりでランニングやウォーキングをすることに支障のある視覚障がいの方々（BLIND）と伴走者（GUIDE）が一緒に運動を楽しむ団体『阿波を共に走る会』。今年活動8年目となる『あわとも』の活動取材しました。

言葉でサポートする難しさ

体験前の私は、公園の様子を知っている状態で目隠しをしています。視覚障がいの方々の中には、生まれつき見えない人もいます。つまり、こういった物がその空間に置かれているのかを把握するためには、サポートをする伴走者の指示が大切だということです。

続いて、私が伴走者になりメンバーのえんちゃんにアイマスクをしてもらいました。「しばらく真っ直ぐ歩きます。もう少し先にコーンがあるので、右に避けます。」実は、こういった指示でさえも曖昧で分かりにくい表現です。「もう少し」とはどの程度先なのか。右に避けるときはどのように避ければいいのか。指示が遅れてしまえば、怪我をさせてしまうこともあるそうです。伝えたいのにうまく伝えることができない。その難しさともどかしさを一気に体感した時間となりました。

“個性”を思う存分楽しむ

体験後、改めて会場にいるメンバーを見てみます。活動場所選ばれた徳島中央公園の全長は、およそ2km。その距離を走るメンバーもいれば、ウォーキン

グをするメンバーもいます。えんちゃんは、「前回16km走ったんよ」と余裕の笑み。伴走するメンバーも走ることが大好きなようです。『あわとも』の活動では、必ずしも走らなければならない訳ではなく、その日の体調や大会のスケジュールに合わせて距離やペースを決めることができます。体験中の私は、何かに掴まらないと進めないほど頼りなかったのですが、会場で活動をするメンバーは「ずっと」素敵な笑顔で走っています。賑やかな声が聞こえ、撮影をする私にポーズを決めてくれるほどの余裕さ。そしてお茶目なみなさん。その様子を一緒にみていたえんちゃんが教えてくれたことがあります。「見える度合いは人それぞれ。でも自分達はボランティアをしているという意識ではない。背が高い、足が速い、それと同じくらいの個性を持ったランニング仲間が集まっているってだけ。」また、他の参加者の方は「私の年齢は高いけど、ここにきてみんなと活動するだけで逆に元気がもらえる。ほなけん、参加し続けている。」と話します。個性的なメンバーとの交流が楽しみの一つようです。

代表の笠井さんは、「今後は、ランニングだけでなくタンDEM自転車や朗読劇

もしたいと思っている。朗読劇をすることで、視覚障がいを持っている人でも表現者になれる。そういった現場をたくさんつくってきたい。」と今後の展望を語ります。できることの制限ではなく、どうすれば楽しみながらできるのか。そういった想いで現場を作りたいという笠井さんの人柄をみることで、できました。『あわとも』では、視覚障がいをもつ参加者やサポート役の伴走者、荷物番、写真係などいろいろな形で関わる仲間を随時募集しています。興味がある方は、ぜひホームページをチェックしてみてくださいね！



↑休憩をとるメンバーと代表の笠井さん（あんきやん）

INFORMATION

阿波を共に走る会

ひとりでランニングやウォーキングをすることに支障のある視覚障がいの方々（BLIND）と伴走者（GUIDE）と一緒に運動を楽しむ団体。

[Email] info@awatomo.org [TEL] 070-4317-7591(笠井)



HP

日曜日は『あわとも』の日

9月初旬の日曜日、私は徳島中央公園に向かいました。現地に着くと「いつてらーっしやーい！」という元気な声が聞こえてきます。集合場所をスタートし、走り出すのは世代も性別も様々なランナーたち。彼らは、会員数200人を超える団体『阿波を共に走る会』、通称『あわとも』の皆さんです。『あわとも』は、視覚障がいのメンバーとサポートをする伴走者で構成されています。視覚障がいといっても、度合いは人それぞれ。ぼやけているけれども見えている人や全く見ることができない人もいます。では、見えない状態で歩くとは、一体どういうことなのか。団体代表の笠井さんが実際に体験させてくれました。体験方法は、アイマスクをし、サポートをしてくれる伴走者と輪になったロープ（通称「きずな」）を互いに握って歩くというもの。伴走者から「足元に草があるので、一歩右に避けて進みます」などの指示をもらいながら歩きます。一見簡単そうではありますが、これが本当に怖い。周りから聞こえる「誰か」の走る音や「何か」の影が動く恐怖感から、足がすくんで思うように進むことができませんでした。

まちプラ 事業紹介



アクション① エコステーション増設

毎年、市民のボランティアと力を合わせてエコステーションの運営を行ってきたまちづくり協働プラザ。2023年は、藍場浜公園、新町川・阿波製紙水際公園、ふれあい橋、両国橋周辺の5か所にエコステーションを増設し、ごみの回収や分別の呼びかけを行いました。悪天候により2日間の活動となりましたが、阿波おどりに訪れた観光客18,000人超がエコステーションを利用しました。現場を仕切るボランティアリーダーは、当日参加する大勢のボランティアを統括するため、事前研修への参加を必須としました。事前研修では、実際の活動エリアの把握や観光客への声のかけ方をレクチャーしました。

アクション③ 踊りで魅せるごみ回収チーム 「ごみゼロ連」

アクション③では、阿波おどりで注目を引き付け、それを見た観客の手持ちのごみを回収するというパフォーマンスを会場内で実施しました。未然にポイ捨てを防ぐことを目的とし、観客から多くのごみを回収することができました。「かつこよかったよ」「ごみ集めてくれてありがとう」「また一緒に躍らせてな」などの声掛けもいただき、エコアクションの活動を知ってもらうことができたのではないかと思います。

エコステーション設置エリア

下の地図は、今年から増設されたエコステーションの設置場所を示しています。より多くの観光客が密集すると予想される5ヶ所を選定し、「ペットボトル・ペットボトルキャップ・缶ビン・可燃物・不燃物」に分別してもらおうと呼びかけを行ないました。枚数での踊り披露が終わる時間帯、もしくは始まる直前でごみを捨てに来る観光客が多いことも分かりました。ボランティアに参加した方は、声が枯れるまでごみの分別啓発や分別に対するお礼の言葉がけをし、多くの方が協力的に分別してくださいました。一方で、今回参加したボランティアは高校生が多く、夜8時以降に参加するボランティアたちの不足が今後の課題となります。



↑ エコステーション設置場所



↑ エコステーションでごみの分別を呼びかけるボランティアたち

阿波おどリエコアクション 2023

4年ぶりに大規模開催となった徳島市の阿波おどり。昨年よりも多くの来場者が訪れると予想される中、会場内のごみ問題が懸念されていました。そこで、市民を巻き込み阿波おどりの課題解決に取り組んだ3つのアクションから成る「阿波おどり エコアクション2023」についてご紹介します。

アクション②

会場内のごみ拾い部隊「遊撃隊」

今年はエコステーションだけではなく、市街地で起きるごみのポイ捨てへ対応するための組織「遊撃隊」を結成しました。「遊撃隊」では、複数人のボランティアがまちなかを巡りながらごみ拾いをします。会場に無人で設置されているごみ箱では、ごみで袋がいっぱいになったとしても捨て続けられてしまい、道路にごみが溢れるという場面をよく見かけます。また、ごみ箱がない側溝などにもポイ捨てがされることから、実際にまちを歩いて落ちているごみを回収しました。観光客から、「ありがとう」と直接声を掛けてもらえることも多かったです。

エコステーション利用者数と

ごみの回収量

昨年は、3ヶ所のエコステーションを4日間運営し、7,000人を超える方に利用していただきました。今年は悪天候のため2日間の運営となりましたが、5ヶ所延べ18,408人の観光客が利用したという結果となりました。これだけのごみがポイ捨てされず回収できたということが分かります。ごみの回収量の内訳は、左の表のようになっています。回収したごみのうち、ペットボトルとペットボトルキャップを有明会社ハイプラ（〒771-1154 徳島県徳島市応神町東貞方字貞光255）へ持参し再製品化（アップサイクル）を依頼しました。ここからうちの骨組みに利用してもらい、来年はそのうちを配布したいと考えています。

エコステーション利用者数

延べ **18,408** 人

ごみ回収量（5ヶ所合計）

資源物（ペットボトル）	64 袋
ペットボトルキャップ	12 袋
資源物（缶・ビン）	57 袋
分別頑張ったんやけど、燃やすしかないごみ	107 袋
不燃物	148 袋

↑ エコステーションの利用人数とごみの回収量



↑ パフォーマンス後に観客のごみを回収している様子



↑ ごみでいっぱいのごみ箱を片付ける「遊撃隊」

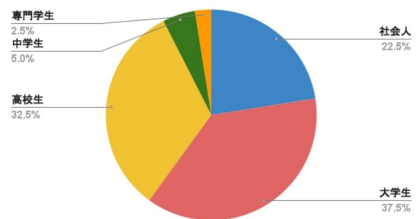
踊る阿呆・見る阿呆を支える存在

「阿波おどリエコアクション」には、延べ102人のボランティアが参加してくれました。申し込み総数は183人と、多くの市民が関心を持ってくれたことが分かります（悪天候のため、開催は2日間のみ）。参加のきっかけは様々ですが、どのような理由であれボランティアの存在が無ければ、お祭りなどのイベントを円滑に回すことは難しいです。今回は、徳島市の大規模イベントである阿波おどりに着目し、多様な主体を巻き込みながら社会課題の解決に取り組みました。今後も、まちづくり協働プラザとして、ボランティアたちの力を巻き込む仕組みづくりを考え、実施していきたいと思っています。

延べ **102** 人のボランティアが参加

※2022年は、4日間で延べ80人が参加

ボランティアの属性



阿波おどリエコアクションには102人のボランティアが参加した。参加者の属性を調査したところ、約7割以上の人たちが学生であることが分かる。一方で、20:30以降の遅い時間帯に参加する人が少なくなることが来年以降の課題として挙げられる。

↑ 「阿波おどリエコアクション」ボランティア参加者の内訳